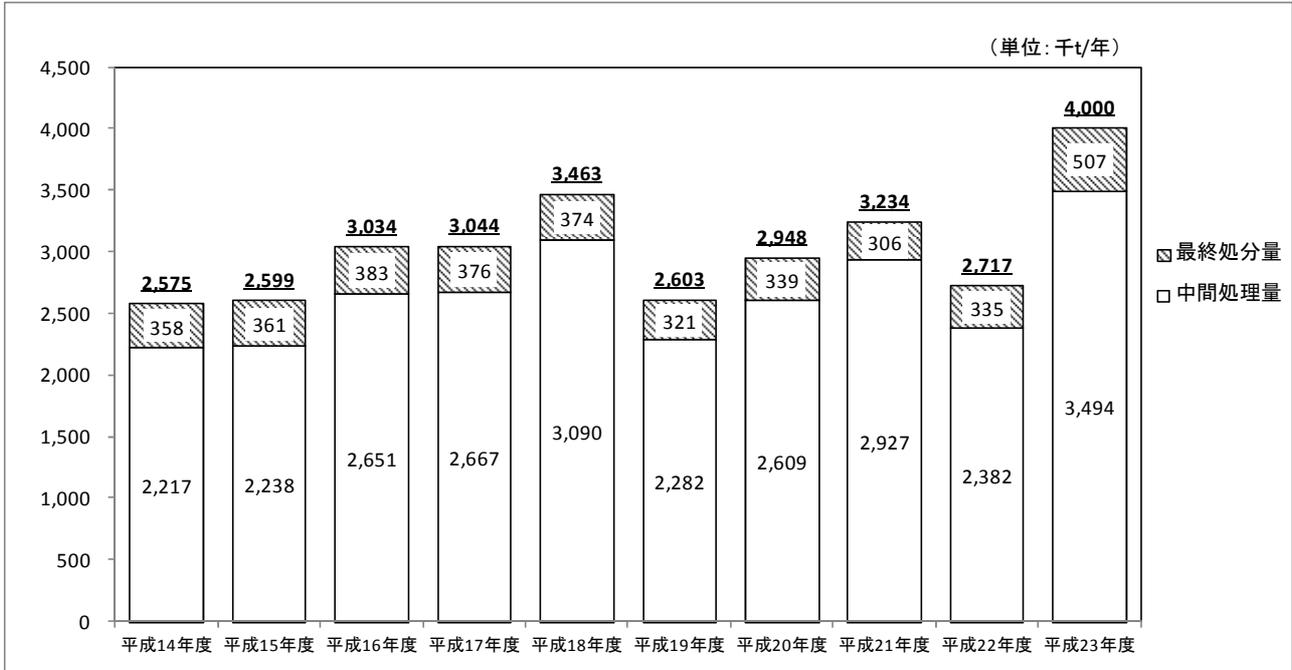


第3章 産業廃棄物の処分実績報告書（様式第28号）の集計結果

第1節 産業廃棄物処理業者の処分量

1. 処分量の推移

平成23年度の産業廃棄物処理業者の処分量は4,000千トンである。この内、中間処理量が3,494千トン、最終処分量が507千トンとなっている。東日本大震災の復興工事の影響により、中間処理量が1,112千トン、最終処分量が172千トン増加している。



▲ 図 3-1-1 処分量の推移

2. 処分方法別の中間処理量

産業廃棄物処理業者の中間処理量を処分方法別にみると、「破碎・圧縮」が3,035千トン（87%）で最も多く、次いで、「固化・造粒固化」が134千トン（4%）、「堆肥化」が96千トン（3%）等となっている。

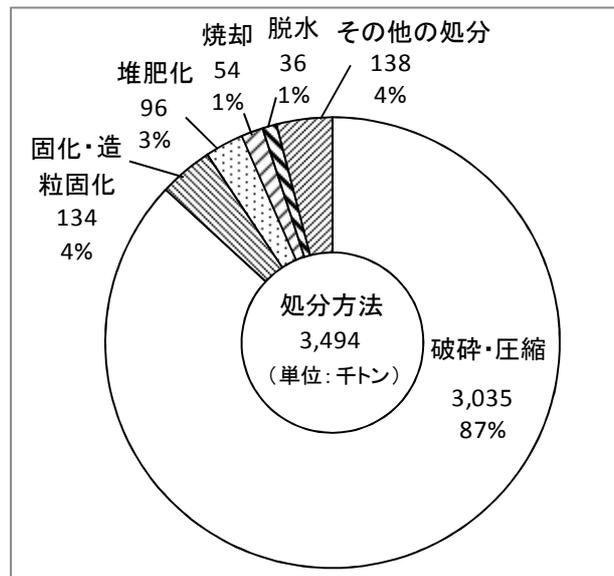
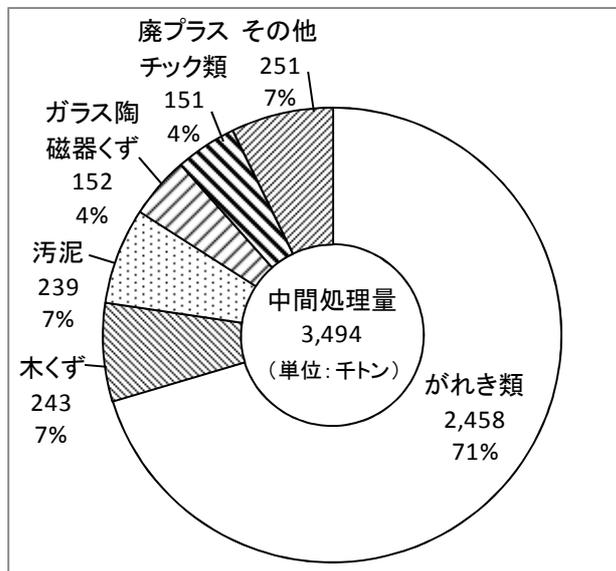


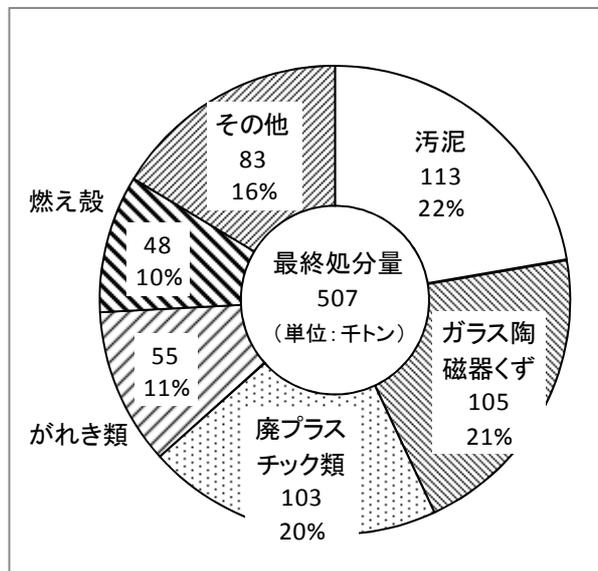
図 3-1-2 処分方法別の処分量

3. 廃棄物種類別の処分量

処分量を種類別にみると、中間処理量では、がれき類が 2,458 千トン（71%）で最も多く、次いで、木くずが 243 千トン（7%）、汚泥が 239 千トン（7%）等となっている。最終処分量では、汚泥が 113 千トン（22%）で最も多く、次いで、ガラス陶磁器くずが 105 千トン（21%）、廃プラスチック類が 103 千トン（20%）等となっている。



▲図 3-1-3 種類別の中間処理量

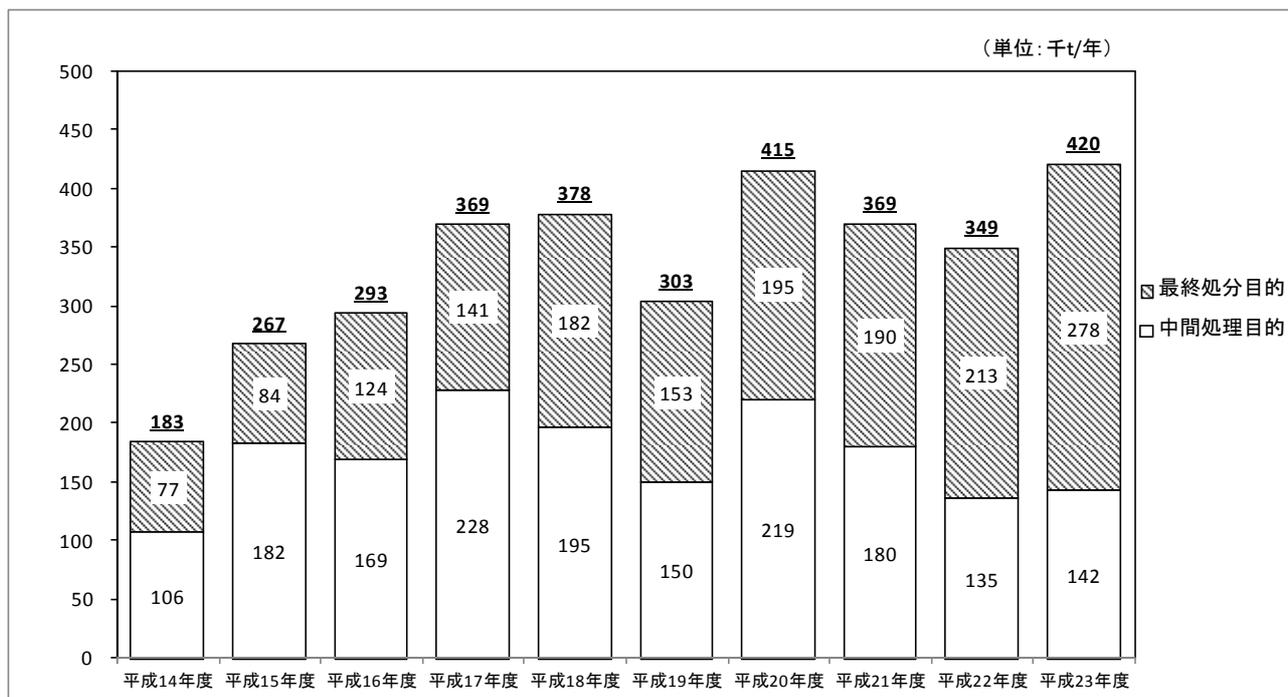


▲図 3-1-4 種類別の最終処分量

第 2 節 県外から県内への搬入量

1. 県内搬入量の推移

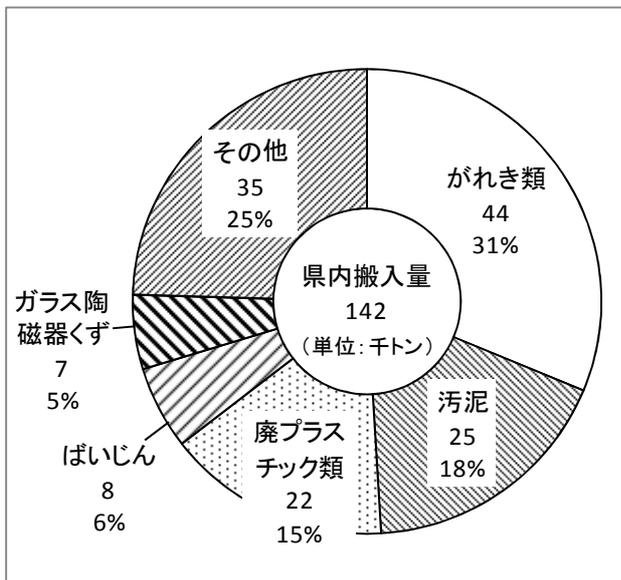
平成 23 年度の県内搬入量は、420 千トンである。この内、中間処理目的が 142 千トン、最終処分目的が 278 千トンとなっている。平成 22 年度と比較すると中間処理量が 7 千トン増加し、最終処分量が 65 千トン増加している。



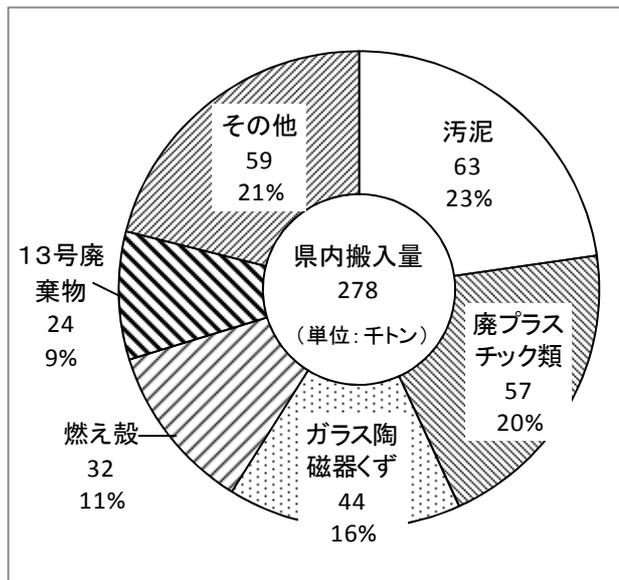
▲図 3-2-1 県内搬入量の推移

2. 種類別の県内搬入量

県内搬入量を種類別にみると、中間処理目的では、がれき類が 44 千トン（31%）で最も多く、次いで、汚泥が 25 千トン（18%）、廃プラスチック類が 22 千トン（15%）等となっている。最終処分目的では、汚泥が 63 千トン（23%）で最も多く、次いで、廃プラスチック類が 57 千トン（20%）、ガラス陶磁器くずが 44 千トン（16%）等となっている。



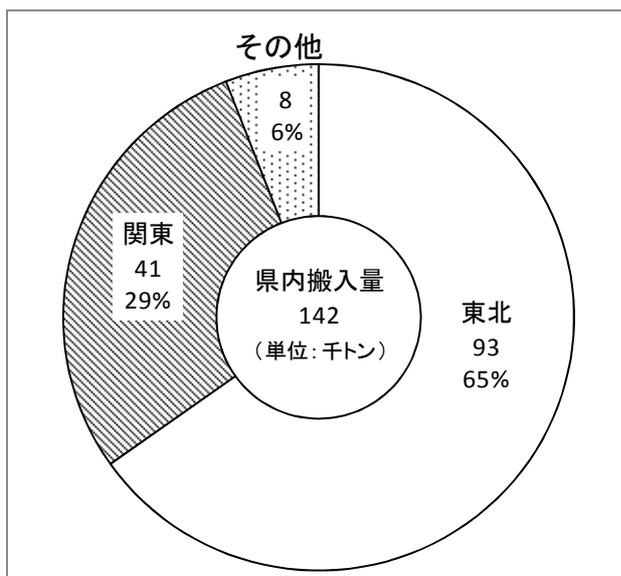
▲図 3-2-2 種類別の県内搬入量（中間処理目的）



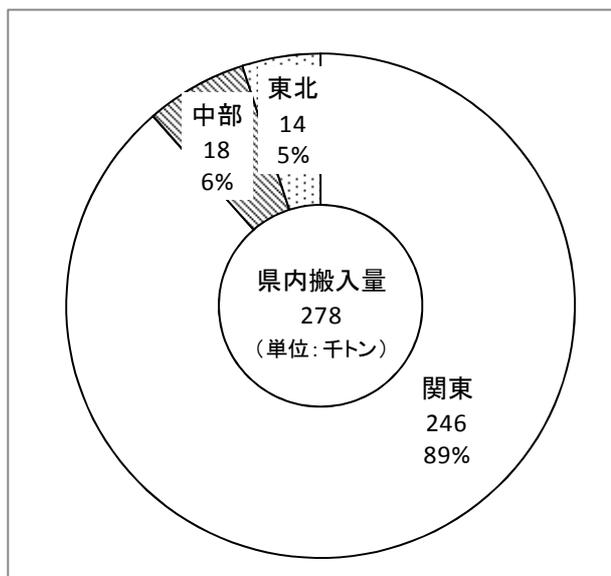
▲図 3-2-3 種類別の県内搬入量（最終処分目的）

3. 搬出地域別の県内搬入量

中間処理目的の県内搬入量を地域別にみると、東北が 93 千トン（65%）で最も多く、次いで、関東が 41 千トン（29%）等となっている。最終処分目的の県内搬入量を地域別にみると関東が 246 千トン（89%）で最も多く、次いで、中部が 18 千トン（6%）、東北が 14 千トン（5%）となっている。



▲図 3-2-4 地域別の県内搬入量（中間処理目的）



▲図 3-2-5 地域別の県内搬入量（最終処分目的）

